

## MAさんとMBさんへのインタビュー（no. 095-96）

### 1) はじめに

自分の人生設計の中で仕事にどのような位置付けを持っているか、また実際に就職活動を行う際にそれがどういった基準へと変わっていくかを中心に、経済学部4回生のMAさんと社会学部4回生のMBさんにインタビュー調査を行った。

### 2) インタビューの内容

#### I. MAさん

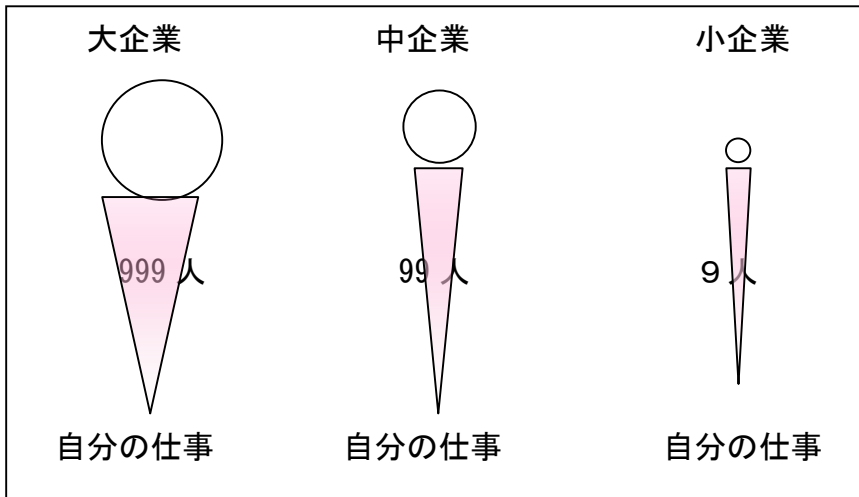
- ・ 楽しむ場所としての仕事場を選んだ。
- ・ 転々と海外を移動するか、日本で一つの場所でずっと住むかの両極端で悩んだ。  
＝転勤族になるか、庭付き一軒家か
- ・ 会社ありきではなくて、その人ありきの仕事がしたい。
- ・ 企業はフィーリングと見た目採用者を選んでいる。
- ・ 業種で絞るんじゃなくて、自分なりの仕事選びの基準を持って、その基準に合わせて絞っていくようにした。そうすれば、一見バラバラな業種を選んでいるように見えても自分なりの統一感みたいなものができる。
- ・ 大企業はいろんな仕事をやってるから、一つの企業の中でいろんなことが出来る。
- ・ 大きい会社もつぶれるけど、小さい会社はもっとつぶれる。

#### II. MBさん

- ・ 結婚よりもリアルなものとして就職を考えていたので、長く働けるところがよかった。
- ・ 長く働くためには、安定して雇用され続ける可能性が比較的高い大手がよいと思った。
- ・ その企業で働く人の雰囲気よりも仕事内容を重視して就活をした。
- ・ 社会の流行を作ることに関わりたかったので、なるべく大きい影響を与えられ

るように、顧客が企業である企業を選んだ。

- ・ 同期の仲が良いかも重視した。
- ・ 企業規模が大きいと取り扱う仕事も多く多彩なものになるが、自分の上にたくさんの方がいる。(下図参照) それが良いか悪いかは自分しだい。



### III. アドバイス

- ・ 業種を絞りすぎない。(可能性を狭めることになる。)
- ・ OB・OG 訪問は絶対したほうがいい。(自分の生き方まで影響を受けた。)
- ・ “自分らしく” 頑張れたこと、をはっきり言えるようにしておくことが大切。
- ・ 相手が自分に抱くだろうイメージと、相手に見せたい自分のイメージと、相手が求めているだろうイメージをはっきりさせて、必要なところは無理のない範囲で微調節しておく。

### IV. 思ったこと

[インタビュー中の就活生を見て]

「途中で気付いたことなんやけど、」

「終わってから思ってたけどな、」という発言が目立つ。

→就職活動からいろんなことを学び取っている。

- ・ 結局面接では何を見られていたと思うかの質問での

「結局こいつと一緒に働きたいかをいろんな質問から見てる」

「単純にその人の素の部分を見てる」という回答

- ・ 身だしなみについての質問での

「ほんまは必要ないのかもしれへんけど、ほんとに採用してほしいっていう気持ちとか姿勢を表すためにきちんとした格好をすることになっている。」

「面接途中で前髪が垂れてきたら気になってしまうやろ？そういう不安材料を取り除くためにしっかり結んだりピンで留めたりするねん。」という回答

→最後には就職活動のマニュアルの元になっている本質的な部分に気付いていく。

- ・ 日本の就職活動を海外の就職活動と比べてどう思うかの質問での

「他の国ならお金出してでもほしいようないろんな企業の情報が誰にでも得られるくらい社会全体に公開されてて、それを無条件で得ることが出来るのはいい所だと思う。」

「社会全体にサポートしてもらえている体制はすごい。」

「自分からやろうとしん限り頑張る必要のあることがあんまりない大学生活で就職活動は貴重な頑張り時」という回答

→就職活動をプラスに見ている（満足のいく就活ができたから？）

「ほんとの面接だったら落ちてるわ、ぜんぜんちゃんと答えられてないもん。」

「ごめんね、なんか話がずれちゃったね。」

「こんなこと聞いてなかったよな。」という発言

→就職活動を通して、人としっかり話す習慣が身についていっている。

[インタビューを振り返って]

- ・ シュウカツというものが（結果的にプラスなのかマイナスなのかはさておき）日本の大学生活の中でうまく機能している。

- テーマは自分のライフプランがどういう風に企業選びにつながるかだったが、実際の就活生はあまりライフプランと企業選びをあまり結び付けてないという印象を受けた。
- むしろ、自分が今やりたいこと、現在を軸に企業を選んでいるようであった。(自分のやりたいことを明確に持っているから?) 一社にずっと勤めたいという安定志向の学生が増えているという一方でこれはどういうことを表しているのだろうか。
- 本当の自分の知りたいことが明確になっていなくて、なかなか思うようなインタビューが出来なかった。
- 業種によってどのように求められるイメージが違うか、そのイメージとほんとの自分にどうやって折り合いをつけたか、周りの人はどうだったか、企業に見せていた自分についてを、来週以降のインタビューの軸にしようかな、と思った。

## MCさんへのインタビュー (no. 097)

### 1) プロフィール

社会学部社会学科4回生のMCさん(男性)にインタビュー調査を行った。MCさんは同じ学科との先輩ということでもともと知り合いで、先日たまたま学校で見かけた時にインタビューのお願いをしたところ快く引き受けてくれた。MCさんは大学で陸上同好会、アルバイトでは塾の講師に力をいれ頑張っておられるらしい。現在内定をもらっていて後一つの企業の最終面接を終えれば就職活動は終わりだそうだ。

### 2) インタビューの内容

Q1. どういった業界を志願されていたのですか。

A1. 旅行とアミューズメント(イベントとかも含め)、鉄道系。

Q2. 就活の中で自分のイメージ作りをしましたか。

A2. エントリーシートの内容を大げさに書いてインパクトのあるものを作る、などといった面ではしました。

Q3. 企業側がイメージを作っているということをもう少し具体的に感じたことはありましたか。

A3. はい。たとえばJRを受けた時、学歴は見ないと建前では言っているくせに実際には国公立の生徒しかとらなかったり、かなり向こうの実情と建前の間に差を感じました。

Q4. イメージ作りは必要だと思いますか。

A4. 旅行系の企業など放っておいても志願者がたくさんいるような人気企業では、自分を作っている人はすぐにバレてしまい、そういう人は就活を乗り切れないように感じます。礼儀正しさや清潔感などのイメージを作ることは大切だと思うけれど、面接で企業が見たいのは素の自分であるから基本的にはイメージ作りは大切ではないと思います。

しかし、企業の方が良いイメージばかり繕っているような企業を受けるときは、

こちらがイメージを作っていくことも必要かもしれません。

Q5. どのように企業選択をしましたか。

A5. マイナビ・リクナビなどから説明会などの情報を得て、自分の興味を感じた企業の方の話を直接聞きに行きました。そこでの企業で働く人や説明の内容、実際の面接をする面接官から自分のフィーリングに合う企業を選びました。ウェブサイトや説明会で自分の会社のメリットや良い点ばかりを主張している企業よりも、自分の会社にとってプラスのイメージを作るのに役に立たないような情報までもをしっかりと情報開示している企業により印象を受けました。(例えば、〇〇第一位、〇〇第三位という上位の成績だけでなく、〇〇十一位などと言った成績もきちんと載せているなど。)

Q6. (日本以外の国の就職活動を説明したうえで)

日本以外の国での就活を考えた時、日本の就活をどう思いますか。

Q6. 日本ぽいな、と感じました。

しなくてはいけないものとして、大学生が就活を(どっちかといえば)やらされる日本の就活は、自分の嫌なことをやる、という一つの経験にもなるし、友達ができるといったメリットもあるだろうとは思いますが。

### 3) インタビューの考察

MCさんの話を聞き就活をしていく上で大切だと思ったことは、“客観的な視点”も持つことである。私たち学生と同じように、企業も外に向けての(中とは別の)顔をもっている。その顔が極端に脚色されたものではないか、作られたものではないか、をいろいろな方面からの情報で確かめる必要があるようだ。企業の一方的な情報を鵜呑みにするだけでなく、それを自分なりに一歩引いたところから分析してみることでそのことが可能になるのではないか。

また自分自身をよく見せようとする結果として作り上げられたうわ面だけの人物は必要ない、と感じた。なぜなら企業も私たちと同じように、外に向けての私たちの顔を通してしか見ることができない私たちの本当の顔を見ようとしているからである。

## MDさんへのインタビュー (no. 098)

### 1) はじめに

[プロフィール]

今回私がインタビューさせていただいたのは、社会学部四回生のMDさんという女性である。MDさんは、もともと私が所属していたサークルの先輩で私がサークルをやめた後も仲良くさせていただいていて、今回このインタビューに協力してくださった。MDさんは大同興業という鉄鋼業の会社に内定されている。就活中には20社ほどエントリーシートを出されたらしい。

### 2) インタビュー内容

●企業選びの軸は何でしたか。

●シュウカツをし始めたころは、「人の“おもしろい”という感情を生み出せるような仕事」というのが企業選びの軸だった。具体的には、おもちゃ関係や広告などの業界を受けていた。また、初めのころは一般職という形で就職することは全く考えていなかったため、総合職ばかりを見ていた。しかし、思っていたように簡単に就活が進まなかったことで他の仕事や働き方も考慮に入れるようになった。そうすると、今まで見ていなかった他の仕事のやりがいなどを見つけることができ、最終的には「みんなの楽しく働ける仕事場を作る仕事」という風に軸が変化した。だから、一般職という働き方をプラスに捉えられるようになったし、一般職だからこそ出来る役割というものに魅力を感じ始めた。好きなことは好きなことで趣味として出来るだろうとも思った。結局、社風がとてもいいな、と感じていた企業の一般職の内定をいただいたので、そこに決めた。

●今までの先輩の話では、たいてい大企業を志願していた方が多かったのですが、MDさんの場合はどうですか。

●私は、大企業というものにそれほどこだわりがなかった。大企業のほうがつぶれにくいとか、福利厚生がいいとか、一概には言えないと思うからだ。就活をする上で、大企業・中小企業・ベンチャー企業のように企業を分類するのも一つの方法かも知れないが、その枠に入る企業がすべて同じわけではないので、結局はひとつひとつの企業をきちんと見て考えてみるのが大切だと思う。同志社の友達には結構名前が通っている有名な企業を受けている子が多かったが、いわゆる産近甲龍くらいの大学に就いている子はほとんど大手企業を受けないらしく、その辺からも自分の大学に変にこだわりを持っているというか、いい大学に行った人はいい企業に就職する、みたいな考え方をみんな無意識に持っているんじゃないかな、と感じた。話は反れるけど、ベンチャー企業にはやっぱりやる気を持った意識の高い人が多いから、すごく人に魅力を感じた。

### 3) 考察

今回のインタビューでは、今までさせて頂いたどのインタビューよりも深く共感することが出来た。MDさんの「楽しいのが一番」といった人生観というか価値観がすごく表れているインタビューだった。MDさんは就活中に落ち込んだ時、積極的に人と会いポジティブな意見を取り入れていたらしい。周りの目や考え方にあまり振り回されずに、自分にとっての一番良い人生を送れるような仕事を選べたら良いな、とMDさんの話を聞き、思った。

### 4) インタビューの振り返り

今回のインタビュアーが仲良しの先輩だったこともあり、聞きたいことは大体聞けたように感じる。しかし、話されている内容につられて自分の聞きたいことがずれていくので、それをうまく調節して一貫性のあるインタビューをすることが難しかった。次回のインタビューでは相手の話を聞きながら、それをうまく次の自分の聴きたい話につなげていけるようにしたいと思った。



## MEさんへのインタビュー (no. 099)

[対象者]

- ・社会学部社会学科4年生 MEさん
- ・女性
- ・アナウンサー志望で現在も就職活動中
- ・一回生からイベントコンパニオンをしたり、ラジオ番組を作ったりしていてマスコミなどに興味を持つようになった。

[インタビュー内容]

・現在の状況

- ・したいことを重視しているので、マスコミ系にしぼって現在も就職活動をしている。やっぱり10月位からアナウンサー志望の人でもあきらめて他の道に進む人も出たけど、自分はここであきらめてしまったら80歳くらいになったときに人生を振り返ってすごく嫌になるかなあと思ったから、この道をやり遂げることにした。

・エントリーシートで気を付けることはありますか。

- ・通ったエントリーシートと通らなかったエントリーシートでは内容の濃さが違った。今見てみると、自分の変なこだわりがレイアウトや文章に出ていて寒いエントリーになってしまっていたことが分かった。エントリーシートは誰かに見てもらったほうがいいよ。

・他国と比較して日本のシュウカツをどう思いますか。

- ・私はアナウンサー志望だったので服装やほかのいろんな面で周りのみんなと違ったシ

ユウカツをしていた。みんなと同じ時に同じことをしていない不安が常にあったし、黒いスーツの就活生を見るととても圧力を感じた。もし日本のシュウカツに自由な雰囲気があれば、もう少し私もシュウカツしやすかったんじゃないかな。

・自分より目上の人と話すときに気を付けることは何かありますか。

・意識しすぎるとかたい話し方になっちゃうので、やわらかく話すように気をつけた。変に畏まる必要はない。普段から慣れていることが大切かも、と思った。面接のときは話す内容を暗記するんじゃなくて整理していくようにした。

・面接どうでしたか。

・たぶんアナウンサーは職業柄、うたれ強い・切り替えの早い人が求められていて、それを見るためだと思うけれど圧迫面接が多かった。

[インタビューを終えて]

周りの友達が次々と就職活動を終えていく中で、自分のやりたいことを最後まで貫く勇気をもっていれるのはすごいことだと思った。先輩の言葉を聞いて、やはりなんら悪いことをしていなくても大半の人がやっていることを一人だけやらないということは、結構精神的に負担になったりするのだなぁと感じた。

今までインタビューさせて頂いた先輩はどの人も就活を終えられていたので、今回は今までと少し雰囲気が違った。つつこめないところもあった。先輩の表情などを見るとシュウカツ大変そうだな～と思った。

## MFさんへのインタビュー (no. 100)

### [対象者]

- ・ 社会学部社会学科 4 回生MF さん
- ・ 女性
- ・ みんなでわいわいするのが好き

### [私の就活]

- ・ 日本食研に内定。
- ・ 10月に意識し始め、1月から本格的に面接が始まった。
- ・ エントリーシートは 30 枚ほど提出。
- ・ まず時期の早いブライダルの業界から活動が始まったがうまくいかず、食品の業界に切り替えた。

### [SPI について]

- ・ SPI は簡単やけど意外と点数が取れてなかったりする。つまり、簡単な問題へもきちんと力を抜かずに取り組める人であるかを見られている。？
- ・ 夏休みくらいから、一冊買ってやっておくと良い。

### [エントリーシートについて]

- ・ エントリーシートの書き方：  
読み手である 50 歳頃の年齢の方の気持ちを考える。  
ひとつの話でも、全部のことを書いてしまわないで興味を引かせる。  
数字などを具体的に書く。
- ・ 周りの人に客観的に見てもらうことが大切。

### [面接について]

- ・ シャベリ方  
私の場合は普段の話し方でよかった。  
ただし、金融はきちんと丁寧な話し方をするほうが良い。  
目を見て話すことを心がけた。  
だらだら話さず簡潔に、分かりやすく話す。  
グループ面接の場合は他の人の話もあいづちをうちつつ聞くようにする。  
積極的に話すのが一番。

- ・ 第一印象が大切なので、部屋に入るときにとにかく明るく元気に。
- ・ 最後の「質問はありますか。」というところで自分をアピールする。実際にこの企業で働くことを真剣に考えているのだな、と思ってもらえるようなことを具体的に聞く。質問されたことの答えを聞き返すのものちの参考になりよい。

ex, 「個人と信頼を築くことを学んだといわれましたが、団体に対しては信頼をどう築いていくんですか？」と面接で聞かれた。最後に質問はありますか、と聞かれた時に、「実際に働いておられて信頼をどう築いていかれるのですか？」と聞いた。

- ・ 圧迫面接では、自分の考えを最後まで貫くことが大切。(貫けば最後には向こうが折れることになっているらしい。)

#### [イメージ]

- ・ イメージ作りで思ったこと  
銀行：従順、食品：ガツガツ/男性に負けないくらい出来る女
- ・ 同じ業界でも会社によってカラーはぜんぜん違う。事前にひとつひとつの会社についてしっかり研究することが大切。
- ・ 数を受けるとその企業が合うか合わないかが分かってくる。
- ・ 雰囲気が違うところには落ちることが多い。
- ・ 友達に〇〇にいそうと言われたところには受かった。

#### [その他のアドバイスと感想]

- ・ 女の子は金融を絶対受けたほうがいい。金融は採用人数が多く、就職活動がうまくいなくて行き詰っているときに、内定を一つでも持っている気持ちに余裕が生まれ、その後の就職活動も焦って失敗することが少なくなるから。
- ・ 就活をして良かったこと3つ  
成長できた、自分を知れた、高めあえる人と出会えた。

#### [インタビューの考察]

今回の調査対象は社会学科の先輩で以前から話をしたこともあったため、インタビューでは和やかなムードで進んだ。どんどんいろんな情報を教えてくださって、就活の様子が良く分かった。就活のノートを何冊も作ったり、手帳に沢山の書き込みをされているのを見て、本当に一生懸命就職活動に取り組まれていたんだなあと感じた。